

# 第1学年 国語科学習指導案

## 1 単元名 「日づけとよう日」

### 2 単元の目標

日付と曜日の言い方を理解し、漢字で書いたり読んだりすることができる。

姿勢・口形などに注意して、はっきりした発音でリズムよく音読できる。

自分の知りたい言葉の意味を辞書を使って調べることができる。

### 3 学習の「習慣・構え」「手順・方法」について

#### (1) 子どもの実態

##### 【習慣・構え】

話し方 ・名前を呼ばれたら「はい」と返事をし、「～です。」「～ます。」をつけて発表することは、かなりできるようになってきた。

・教室の中心を向いて発表することは、少しずつ身に付いてきている。

・発表の時の声が小さくなりがちである。

聞き方 ・発表する人の方に顔を向けて聞くことは、まだ十分ではないが少しずつできてきている。

・相手の話にならずいたり首をかしげたりといった反応を表すことは、まだまだできていない。

##### 【手順・方法】

本学級には、まだ正確な発音が十分できていない児童がいる。そこで、ひとつひとつの言葉を正しく発音し習得していくための手立てとして1学期から音読を活用している。音読の指導はこれまで次のような手順で行ってきている。

口の形を意識しながら、「あ・い・う・え・お」の母音を発声する練習をしっかりとる。

口の準備体操として「五十音」の詩をはっきりとした発音で音読する。

慣れてきたら、リズムをとりながらテンポよく音読する。

いろいろな詩を、リズムに乗って楽しく音読する。

新しい言葉との出会いを広げるために、音読に文学作品を取り入れていく。

また本学級は全体的に幼く習得語彙数もあまり多いほうではない。そのため、自分の言いたいことをうまく表現できない児童もいる。学力的にかなり厳しい児童も数名いる。そこで、1学期はモジュールや家庭学習を利用して、言葉集め・文作り・視写などに取り組むことで、言葉の範囲を少しずつ広げてきている。さらに言葉への興味を喚起し、自分の力で語彙力を伸ばしてほしいという思いで、9月からは辞書引きを取り入れている。自由に触らせ、活用することを楽しめるようにしている。

#### (2) 本単元で培いたい指導内容

##### 【習慣・構え】

・教室のみんなに聞こえるような声で話すことができる。

・教室の中心を向いて話すことができる。

・相手の話に反応しながら聞くことができる。

・発表する人の方に顔を向けて話を聞くことができる。

## 【手順・方法】

辞書に慣れるための手順・方法（児童）

カバーは外し，常に机の上に出しておく。

最初のうちは，ページをめくって知っている言葉をさがす。

知っている言葉を見つけたら，その言葉の意味を声に出して読む。

言葉の意味が分かったら，付箋紙（25ミリの大きさ）に引いた言葉を書いて辞書に貼る。

**辞書に少しずつ慣れてきたら，自分の引きたい言葉をさがすようにする。（本時のポイント）**

意味や用例の説明の中に分からない言葉があったら，その言葉も引いてみる。

国語の時間以外でも，分からない言葉が出たらすぐ辞書を引くようにする。

辞書に慣れさせるための手順・方法（教師）

毎日辞書引きの時間を数分とる。

席のとなり同士でペアになって言葉をさがす。

最初の一文字を限定する。（例えば「あ」に限定するとさがしやすくなる。）

見つけたペアから立って音読する。

全員が引いたら，もう一度全員で一緒に音読する。

**辞書を引くことに慣れてきたら，個人で引くようにする。（本時のポイント）**

国語だけでなく，いろいろな教科で積極的に辞書を活用していく。

辞書を引く態度をしっかりほめる。

## 4 指導計画（全3時間）

配時	学習活動と内容	教師の支援と留意点
1 本 時	1 日付歌を音読しよう。 （1）学習のめあてをつかむ。 （2）漢数字の読み方と日付の読み方を比べる。 （3）日付歌を楽しく唱える。	漢数字と日付の読み方を比べ，同じ読み方と違う読み方があることに気づかせる。 調子よく唱えることができるよう何度も繰り返し唱える。
2	2 曜日歌を音読しよう。 （1）学習のめあてをつかむ。 （2）曜日の読み方と書き方を理解する。 （3）曜日歌を楽しく唱える。	二通りの読み方を押さえる。 口形に注意してはっきりした発音で読むことを確認する。
3	3 日付歌や曜日歌を作ろう。 （1）学習のめあてをつかむ。 （2）自分の日付歌・曜日歌を作る。 （3）作品を発表しあう。	それぞれの歌の特徴を生かして作ることを理解させる。 漢字が正しく書けているか見て回り，必要に応じて適宜指導する。 友だちのよいところを認め合う。

5 本時（1 / 3）

平成20年11月12日（水）

5校時

教室

## 6 本時指導の目標

日付の読み方を理解し，日付歌を楽しく唱える。

姿勢・口形などに注意して，はっきりした発音でリズムよく音読する。

「一日」の二つの読み方と日付歌の中に出てくる分からない言葉を辞書で調べることができる。

## 8 本時の展開

主な学習活動と内容	教師の支援と指導上の留意点
<p>発音練習と気持ちを集中させるために音読をする。</p> <p>五十音（リレー読み）</p> <p>坊ちゃん・竹取物語・冬が来た（一斉読み）</p>	<p>カスタネットでリズムを取りながら、楽しく音読する。引き締まった声を意識させる。</p>
<p><b>1 本時のめあてをつかむ。</b></p> <p>「一日」の読み方には二通りあることを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いちにち...朝から晩まで</li> <li>・ついたち...月の一番はじめの日</li> </ul> <p>それぞれどんな意味があるか辞書で確かめる。</p> <p>今日の学習のめあてを確かめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>日づけのよみかたをしらべて、日づけうたをたのしくおんどくできるようになるう。</p> </div> <p><b>2 日付や言葉の意味を確認しながら、日付歌を読み進める。</b></p> <p>日付歌の に入る言葉を考える。</p> <p>（例）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・三月三日は</li> <li>・五月五日は</li> <li>・七月七日は</li> </ul> <p>難しい言葉や疑問に思った言葉は辞書を引いて確かめる。</p> <p>十一月のところでは、「おちばひろい」のかわりに入れる言葉を自分たちで考える。</p> <p><b>3 日付歌を楽しく音読する。</b></p> <p>十一月の部分は、自分たちの発表した内容も入れ込んで音読する。</p> <p>日付の読み方に注意しながら、楽しく音読する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・口を大きく開けて読む。</li> <li>・リズムカルに読む。</li> </ul> <p><b>4 学習のまとめをし、自己評価する。</b></p>	<p>この学習に入る前から、黒板に日付や曜日を書いたりカレンダーを貼ったりと、言語環境を整えておく。</p> <p>読み方が違うと意味も違ってくるところを、辞書を引くことで確かめる。</p> <p>にすることでそれぞれの月の風物を意識させ、イメージをふくらませる。</p> <p>辞書を引くことで、新たに気づいたことや分かったことを確認し、言葉の意味を広げさせる。</p> <p>今の季節を意識させるために、自分たちの生活の中から考えさせる。</p> <p>口形に注意して、はっきりした発音で読むことを確認する。</p> <p>日付歌のプリントに日付の読み仮名を書き込む。</p> <p>音読・辞書の活用・発表・話の聞き方の項目を自己評価させる。</p>